令和４年度第１回舞鶴市総合教育会議 会議録

〈開催日時〉　令和４年８月29日（月）　15：00～16：30

〈開催場所〉　舞鶴市政記念館　ホール

〈出 席 者〉　舞鶴市長　多々見　良三
教育長　奥水　孝志
教育委員　荻野　隆三
教育委員　冨川　唯夫
教育委員　内藤　行雄
教育委員　西谷　和子

〈欠 席 者〉　教育委員　四方　あかね

〈傍 聴 人〉　２名

〈次　　第〉　１．市長挨拶
２．報告事項　教育振興大綱事業計画書について
３．協議事項　次期舞鶴市教育振興大綱の策定について
４．その他

〈会 議 録〉

1．市長あいさつ

本日は、舞鶴市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様には大変ご多用の中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様には、日ごろから本市の教育行政の推進に格別なご理解とご支援をいただいておりますことに対しまして厚くお礼申し上げます。

さて、本日の議題でありますが、次期舞鶴市教育振興大綱についてであります。平成 27 年から教育委員の皆様と市長とがこのまちの教育の方向性を話し合う総合教育会議が設置され、それにより平成 27 年度に本市の第一期教育振興大綱の大綱が策定されました。

その第一期の大綱ができて 4 年目となる平成 30 年度に総合教育会議をする中で、私と委員の皆様が本市の教育についての目指すべき姿と課題について議論し見直しを行ったのが、現在の第二期の大綱です。

この第二期大綱がスタートしてから早くも 3 年余りが経過し、今年度が計画期間の最終年度となりますことから、来年度からスタートする第三期の教育振興大綱の策定に向けた議論を行う時期を迎えました。

この間、私は「まちづくりは人づくり」であるという信念の下、教育振興大綱に定める「育てたい子ども像」である『ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども』を育成するため、天候に左右されることなく安心して遊ぶことができる「子育て交流施設あそびあむ」の整備や、東地区の保育所を「うみべのもり保育所」として統合し、また西地区においては舞鶴幼稚園を舞鶴こども園とするなど、子どもにかける投資はしっかりするという思いから、小さい子どもの施設は基本的に全て新しく整備してきています。また、小・中学校では耐震化とエアコン整備を全校で完了しています。

中学校では、平成 24 年に小規模学校から始めた給食は、今では全中学校で導入されています。また、義務教育を受けている中で、適切な競争心が必要ではないかとの思いから、教育長とお話しし、中学校の市内統一学力診断テストを始めました。

さらに国の大きな方針として令和 3 年度からは、ＧＩＧＡスクール構想により導入した、児童生徒１人１台タブレット端末と通信ネットワーク環境の効果的な活用を積極的に推進し、子どもたちが健やかに将来の夢を育みながら成長

できる環境の充実を図ってまいりました。

また、本市の特色ある歴史、文化、豊かな自然や主要産業などについて、本市独自の副読本や校外学習などを通した学習の取組みや、私が市内全ての中学校を訪問し、中学2年生を対象に舞鶴の良さを伝える「市長のふるさと舞鶴講義」などの取組みを実施しています。子どもたちには、「中学2年生、14歳は昔であれば「元服」と言い、親から離れる準備をする歳です。何のために勉強しているのか、社会・人に尽くすためどんな仕事をイメージして頑張るのか志をたてること」と強調しています。子どもたちの学びを深め、ふるさと舞鶴に誇りと愛着を持ち、将来、地域社会に貢献できる人材として成長できるように取り組んできているところであります。

さらには、教育振興大綱の基本理念である「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現するため、人格形成の基礎を培う上で重要な乳幼児教育の充実を目指し、公立・民間、保育所・幼稚園、認定こども園、小学校間の枠を超えた連携による教育・保育の質の向上に向けた取組みを推進し、「乳幼児教育のまち・舞鶴」と言っていただけるほど積極的な取組みを行うとともに、小中一貫教育の導入により、中1ギャップの解消や、義務教育9年間を修了するのにふさわしい確かな学力の定着、また豊かな人間性・社会性、健やかな体など、バランスのとれた生きる力の育成に取り組み、教育環境の充実を図ってきたところであります。

一方、令和2年初頭から始まりました新型コロナウイルス感染拡大は教育にも大きな影響を与えています。令和2年3月には全国一斉の休校が行われ、その後も、臨時休校や学級閉鎖が繰り返される中で、教育現場の1人1台タブレット端末の積極的な活用による学習の取組みが行われた半面、学校行事や部活動の中止などの感染防止対策の徹底により、教育環境、学校生活が様変わりしました。人間関係が希薄化するなどの影響を受けた子どもたちが不登校となるケースが全国で増加し、本市においても同様の傾向が表れております。

こうした状況の中、現在、国においては、国全体の教育振興に関する総合的な計画である「教育振興基本計画」の改定に向けて議論が行われており、その中で、超スマート社会に対応し、幼児教育、義務教育から高校、大学等までの一貫性を持ちながら、デジタルとリアルの組み合わせによるコロナ後の教育や学習の在り方について検討が行われるとともに、誰一人取り残さず、一人ひとりの多様な幸せであり社会全体の幸せである「ウェルビーイング」が実現される教育の在り方が検討されているところであります。このような「デジタルと

リアル」、「ウェルビーイング」などカタカナがいっぱい出てきており、もう少しわかりやすい日本語で訴えられないのかと思っているところであります。

本市におきましても、舞鶴市総合計画後期実行計画の策定を今現在進めているところであり、令和5年から後期実行計画に入りますので、本市の豊かな自然、歴史・文化を生かした特色ある教育、充実した子育て環境など、この地域にしかない魅力を最大限に生かし、都会では味わうことのできない環境の中で、共に助け合う、お互いさまということで助け合う地域コミュニティを醸成し、市民一人ひとりが夢や希望を叶え、心の豊かさと生きがいを持って暮らすことのできる「心豊かに暮らせるまちづくり」を進めていくための取り組みを充実させてまいりたいと考えております。

私は、現在の本市の教育振興大綱には、普遍的な内容が多く盛り込まれていると考えておりますが、国において議論されている内容や、また時代の変化により本市が新たに取り組まねばならない方向性などについて、次期教育振興大綱に盛り込みたいと考えています。

教育を取り巻く環境が転換していくこの重要な時期におきまして、将来を担う子どもたちに今後どのような力を身につけさせることが必要なのか、またその力を身につけるため、どのような教育を進めていくべきなのか、本会議はその基本的な方針を定める大変重要な会議となりますことから、委員の皆様方には、それぞれのお立場から積極的な御意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたりましての、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

2．報告事項

教育振興大綱の事業計画書について
―事務局から報告―（資料１）

3．協議事項

（奥水教育長）
市長におかれましては大変お忙しい中、本日の時間を割いていただきありがとうございます。市長と教育委員会、共通理解の下、舞鶴の教育を進めてまい

りたいと考えております。

さて、見直しの話の前に、そもそも今の変化の激しい、変化の速い時代に子どもたちに求められる力は何なのかを共通理解しておくことが大切だと考えます。まず求められる力は、「課題解決能力」と盛んに言われるようになっています。社会がかなりのスピードで多様に変化していく中、社会、地域、自分たちの身の回りの様々な課題を見つけて、解決する力を発揮していくということだと思います。しかし、さらに時代が進み10年、20年先になるとどうかと思ったとき、おそらくある程度はＡＩが課題を解決する時代がやってくるのではないかと考えています。ＡＩに100％頼るということではありませんが、そういう時代を目前にしていると、課題を解決する力は必要だけれども、実は子どもたちには、ＡＩが出した解決への道筋をチェックする力、その課題解決の方法が良いのか疑問を持ち積極的に議論する力、さらに子どもたち自身が課題を見つける力が求められる時代が来るのではないかと思っています。そのように先読みしながら、社会総がかりで、子どもたちにどのような力が必要なのかを示していくのが大綱の骨格であると考えています。

次期大綱は、市長と同じように基本的には現大綱から大きな修正、改定は必要ないと考えていますが、そのうえで、もう少し触れてはどうかという視点で1点申し上げたいと思います。

1点目は、家庭教育と学校教育と社会教育は個々別々にあるのではなく、密接にあり、三つのものがそれぞれにそれぞれの役割を果たしながら、つながることで教育が成立するということです。現大綱にはそれぞれの大切さは触れられていますが、それぞれがいい意味で影響を及ぼしあって進めていく、という視点が少し欠けているという気がしています。

2点目は、教育環境についてあまり触れられていないので入れてもいいのではないかと考えます。少子高齢化など激しい社会の変化の中で、子どもの教育のためにどのような環境をつくっていくべきなのかという視点が必要ではないでしょうか。子どものためを第一に考えたとき、どのような環境が子どもたちのためになるのか考え、そのような環境を作るのが大人の責任であると思っています。例えば、その環境の一つとして、ＧＩＧＡスクール構想をはじめとした教育におけるＩＣＴ環境の整備を着実に進めていくことも、子どもたちにとっての大切な環境づくりであると考えます。

3点目は、国が掲げている次期教育振興基本計画において「ウェルビーイング」という概念が打ち出されていることです。「社会の幸せ」、「個人の幸せ」という考え方でしょうか。子どもたちが社会にとって役立っていることが、子どもたちの幸せ感につながる、そのような考え方なのではないかと感じています。心の豊かさもひとつの幸せであると思います。それを基本的なコンセプトとして、追求し、それに取組んでいく必要性を大綱の中に打ち出していっては

どうかと考えています。

教育振興大綱を大きな枠と考えたときに、いろいろな考え方を示していくのもひとつの大きな役割だと考えています。

（荻野教育委員）
現行の教育振興大綱には、舞鶴市の教育の重要な骨組みが示されており、次期大綱においても、その骨組みを大切にして進めていってほしいと思います。そのうえで、日頃思っていることについて3点述べたいと思います。

1点目は、子どもの「学ぶ意欲を育む」ということについてです。
義務教育段階の子どもたちにとっては、学校での学習が生活の中心になりますが、子どもたちがそのことにどのように向き合えているのか、どのような環境・きっかけ・働きかけにより意欲的に学びに向かう構えが子どもたちの内面に育まれるのか、夢チャレンジサポート事業をはじめ多くの取組みがありますが、学校や、家庭、地域社会の身近な大人の関わりが果たす役割について考えたいと思います。

学校では、中央教育審議会から提言されている「令和の学校教育」にある「個別最適化の教育」に取り組むことが挙げられます。一人ひとりの児童・生徒の学習状況や特徴的な学習の傾向に即して学習を進めることができれば、その子の学習意欲を引き出し、自発的な学習が期待できます。学び手である児童・生徒の側から、よりよい学習となる授業の在り方について検討が求められています。また、このことは発達障害のある子どもにとって、特別支援教育の視点からも意義があります。ＧＩＧＡスクール構想の１人１台タブレット端末は、このような取組みに大きく寄与すると思います。

また、学校でも家庭でも、子どもたちを評価する「物差し」について検討することも、子どもの意欲を育む取組みにつながるのではないかと思います。一般的には評価は水平方向に他の児童・生徒と比べる方法が考えられますが、同時に垂直方向に過去の自分と比べて時系列の中で捉える評価もあります。過去の自分と比べてできるようになったことや成長したことを評価されることは、児童・生徒を力づけ、意欲づけます。一人ひとりにおいて評価がされることも大切にしたいものだと思います。

また、家庭で子どもが信頼する親や大人に、疑問に思うことを尋ねたり、自分の思いや考えを話したりする経験が、コミュニケーション能力を育み、子どもが学校や園で意欲的に活動する基盤を作っていると思います。大切にしないといけないものだと思っています。
地域社会においても、地域の大人の方々の見守り活動や声かけ、学校教育活動への参画で、地域への愛着や、安定して生活する習慣、社会的な視野を広げる機会にもつながっています。

子ども一人ひとりの生活状況や興味関心は異なり、「こうすればこうなる」というように簡単にはいかないと思いますが、ここに周りの大人が意識して関わっていくことが大切だと思います。

2点目に、ＩＣＴを活用した教育の推進について述べたいと思います。
ＩＣＴによってどういった教育の可能性が拓かれていくのか。現在、学校現場では鋭意取り組まれていることと思います。
「個別最適化の教育」を進めていくうえで、ＩＣＴには大きな可能性があると思います。期待されることの一つとしてオンラインで国内外の様々な地域の子どもたちとつながることが挙げられます。そうした取組みは、児童・生徒の物事を見る視野を広げる機会になります。今年の「中学生の主張大会」で、ある生徒が、オンラインマルチゲームに参加を申し込んできたフィリピンの子となんとか英語でコミュニケーションを取る中で、英語が通じたことに大きな喜びや達成感を感じ、「それまで英語を何のために学ぶのか疑問だったが、学ぶことの意義について改めて考え直した」という経験を語っていました。舞鶴とは違った環境で頑張っている人と交流できれば、児童・生徒にいろいろな気づきがもたらされるのではないかと思います。

3点目は、家庭・地域の力を学校教育に取り入れる取組みについてです。
子どもの教育は学校と家庭、地域社会が互いに連携し、それぞれの役割を果たしながらバランスよく進めることが重要だと思います。本市では既に全ての小・中学校に学校運営協議会が設けられ、コミュニティスクールの取組みが進められていますが、その取組みの内容の充実に期待したいと思います。とりわけ、学校外の保護者や地域の方々が、学校というフィールドで教員や児童・生徒とともに連携・協力して活動することが、今後一層増えていけばと思っています。そうした意味で、学校運営協議会に対する教育委員会からの支援や情報提供などが行われるといいのではないかと考えています。

（冨川教育委員）
現行の教育振興大綱の評価のうち3点述べたいと思います。
まず、1点目には、私は、小中一貫校教育が、様々なきめ細やかな取組みにより成果が上がっていると感じています。令和3年度では、「授業がよくわかる」と答えた児童・生徒の割合は、小学校6年生は83.4%、また中学校3年生では77.6%と高い数字になっています。現大綱の基本理念に「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を挙げられていますが、小・中学校のこの期間は大変重要な時期であると考えています。次期大綱に向けては、さらに一人ひとりの特性、能力、個性、ニーズにきめ細かい指導や組織的・計画的な支援が重要になってくるのではないかと考えています。

2点目は、いじめ・不登校対策についてです。毎月の定例教育委員会において報告がありますが、不登校の原因は様々で多岐に渡ると聞いております。今

後とも個々の事案について、その原因が様々であることを認識し、十分に検証したうえで、具体的できめ細やかな対応を講じていただきたいと思っています。令和4年度の不登校の出現率の目標値は、小学校では0.65%、中学校では3.07%となっています。ぜひ実現できるよう重ねての取組みをよろしくお願します。

3番目には、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持つ教育の取組み、子どもたちが学びを通じてふるさとの良さを体験する「市長のふるさと舞鶴講義」は大変重要な施策と考えています。昨年はオンライン開催でありましたが、今年度はコロナ対策に十分配慮して直接生徒にお話をしていただければと思っております。様々な切り口で市長の想い、舞鶴の魅力をお話ししていただきたく思います。

最後に、次期大綱につながるかはわかりませんが、最近のＩＣＴを取り巻くいろいろな問題について私見を述べさせていただきたいと思います。

ＩＣＴの推進で、学びそのものが急速に変化していることはご存知のとおりです。学校では、タブレット端末をはじめとして、デジタル教科書の導入、小学校3年生の英語の導入も計画されています。この1人1台端末は協働的な学びを確保することができますが、一方で学力の向上や効率化に目が行き、その弊害として、視力低下など健康面への悪影響や、機能を悪用したネット上のいじめも多数報告されているところです。また、安易に検索に頼り、試行錯誤し考えていくという力がついていかないこともあり、読解力や思考力の向上が今後の課題であります。デジタル化はどの分野においても今や避けられない時代となっていますが、デジタル化を押し付けることなく、子どもたち一人ひとりの個性や発達段階に応じた対応が必要であると同時に、安心・安全な学びの場が確立されますように、今後とも積極的に取り組んでいくことが超スマート社会を目指すうえでも大変重要であると考えています。

（内藤教育委員）

現在、文部科学大臣が中央教育審議会に次期の教育振興基本計画について諮問して作成が進められているところでございます。その審議状況も踏まえながら、本市の大綱を考えるわけですが、育てたい子ども像を「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども」と掲げ「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現するため、5つの基本方針を柱として策定されている現行の舞鶴市の教育振興大綱について、大きく変更する必要は無いと考えています。特に、現行の教育振興大綱に沿って作成された事業計画により実施されている主要施策については引き続き、点検・検証を行いながらさらに進めていただくよう願っております。

ただ、現在進められている中央教育審議会の審議の中でも、新たな文言や課題が出されていることもあり現在感じていることを述べてみたいと思います。

まず、ふるさと学習についてです。ふるさとを愛し、ふるさとの将来を考えるため、「市長のふるさと舞鶴講義」を先頭に、ふるさと舞鶴の歴史を学び、小学生の社会見学や中学生による職場体験、夢講演会などを行い、ふるさとの良さを学んでいます。ただ、高校を卒業し進学を機に舞鶴を離れると、卒業後ふるさとに戻る若者が少ない現実に非常に残念に思っています。小・中学生にとって、ふるさと学習がそれぞれの段階に応じ、もう少しふるさと舞鶴の将来につながるキャリア教育になればと願っています。

2つ目は、学力向上という視点から、学ぶ意欲を育てる、学力の定着についてです。夢チャレンジ事業として、中学生の学力診断テストや英検検定料の支援があります。英検受験者はまだ数としては少ないですが、学習意欲が高まっていることを嬉しく思い、大いに期待しています。また、毎年実施されている学力診断テストにおいては、それぞれ学校等で分析結果が話題になっているはずです。その結果をそれぞれの学校の課題として教科指導等で活用されれば、さらに学力の定着が進むのではないかと思っております。

3つ目は、教員の資質能力の向上を目指す充実した教員研修についてです。研修課題はいろいろなところにあると思います。教育課題の解決に向け、教員の資質・能力の向上、教育格差、学校間格差のない教育について考えております。学習にタブレット端末が導入され、デジタル化が進む教育現場で、学習内容に、学校間格差が生じないようにすることが大きな課題と感じています。京都府、中丹、市をあげて研修をされていると思いますが、特に情報技術を活用した教材づくり、授業方法の開発など今後の重要課題として全教員に対してきっちりとした研修が望まれます。また、最近、特別支援を必要とする児童・生徒や、不登校児童・生徒の増加など、喫緊の教育課題が取り上げられています。このような問題も、学校間で事例交流や研修により、教員の指導力の向上を図る取組みとともに、課題解決につながる実のある研修を深められるようにしてもらえればと思っています。

4つ目は、少子化についてです。少子高齢化は行政においても大変大きな課題であると考えており、舞鶴市でも進んでいます。その中で学校では少子化はどのような影響を受けているのかを考えたとき、既に1学年1学級、その1学級も10名未満という学校がいくつかあると聞いています。そのような学校では、授業は複式学級で行われていたり、学校行事が満足にできていなかったりする状況がみられると思います。また、中学校の小規模校では部活動が十分にできない状況がみられるのではないかと思います。

教育活動全体を見ると、児童・生徒の数が多い少ないということで、学校間格差が生じてはならないと考えます。現在進められている中央教育審議会の審議の中でも挙げられております「誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出す」教育施策の実現を考えていかなければならないと思っています。

最後に、学校の中で、特に中学校で歴史的な変化が今目の前にあります。子

どもたちを育てていく中で、地域や社会の教育団体が見守っていくのは言うまでもありませんが、中学校では令和5～7年を目途に、3年間で休日の部活動が段階的に地域移行していく状況にあります。今まで当たり前のように行われてきた部活動が大きく変化します。保護者や生徒に混乱をきたさないよう、地域のスポーツクラブや文化活動団体と連携を深め、その基盤や運営体制づくりを早急に進める必要があるのではないかと考えています。

（西谷教育委員）

地域社会での子育て支援についていくつか述べさせていただきたいと思います。

舞鶴市の不登校児童・生徒は増加傾向にあります。今も不登校児童・生徒に対し相談員やスクールカウンセラー、明日葉など専門の方により助けられる子どもたちもいると思います。それもとても大切なことなのですが、それより前に気になるようなことがあれば、その子の地域の民生児童委員や主任児童委員に早い時期に相談し、学校と連携して近所の人から声かけをしていくことで不登校防止にならないかと思っています。

また、不登校は子どもたちだけでなく家庭の影響もあると思いますので、家庭で困ったことはないか、親子関係はどうか、ヤングケアラーではないか等、子どもたちが住む地域の方々がそれぞれ違う視点で見守り、声をかけながらチームとして、一人ひとりの問題を解決していく仕組みを作ってはどうかと思います。子どもたちが相談できる相手は一人でも多い方が良いと思いますので、子どもたちが安心して相談できるような人たちを、地域の中でアンケートや募集をかけて丁寧に探していってはどうかと思います。

私は主任児童員をしていますが、主任児童委員について周知されていないと感じていますし、不登校や家庭の問題はプライベートなこともあり、相談されることはほとんどありません。相談があれば力になりたいと思っていますし、他にも地域の力になりたいと思っている方はいると思います。相談できる人を探し増やし、そこに住む地域の人たちの目で子どもたちの健全な成長を見届ける仕組みを作ってはどうかと思います。

次に、特色ある教育についてです。中学校の職場体験では企業に協力いただき、その中で子どもたちは生き生きと参加しているという印象があります。さらに、舞鶴は自然が多く、学校や地域のお祭りなどの体験ができます。三浜や野原、田井などの地域の方々の協力を得て、海から離れた所に住んでいる舞鶴の子どもたちに海の近くの民泊体験ができたら面白いなと思っています。その地域にもよりますが、田植えや稲刈りの時期になったら農作業を手伝ったり、地域の方々と一緒に社会体験できたりする活動が増えればいいと思います。

3番目に、助け合いの精神について述べさせていただきます。これから子どもたちは目覚ましい変化を生き抜くためのスピードが求められます。その一方で学校という社会の中で、子どもたち同士でどれくらい助け合うことができて

いるかが気になります。
　どんな授業にしても、早くできた子がまだ終わっていない子を待っている時間があります。その間、余った時間に用意されたプリントをすることで学力を伸ばす子もいると思います。これも学校で学力を伸ばす大事な取組みです。ですが、時間がかかる子がどこで躓いているのか、周りは気づかないものです。わからないところをお互いに教え合う、助け合うことが日々の生活の中で習慣になっていないと、そばにいる誰かの不安や変化に気づかず、逆に立ち止まっている子は助けられた経験が少ないことから、助けてもらえないと思い、誰にも相談できない子が増えるのではないかと思います。時々「できない子の気持ちがわからない」という方がおられますが、それまでわからない人や困っている人に手を差し伸べ寄り添う経験が少なかったのではないかと想像します。
　学習だけに限らず、友達を助ける、教え合う、支え合う、寄り添うことを当たり前にできる心に余裕がある環境であって欲しいです。これは将来自分自身の子育てや社会生活でも必要なことだと思います。友達が何に困っているのか、悩んでいるのかを察し、解決するスキルを身に付けてほしいと思います。

　4番目に、命の授業につながることですが、義務教育期間は．兄弟がいない限りは未就学児の子たちと接する機会があまりありません。授業で子育ての話を聞いてもピンとこない子もいると思います。城北中学校などで行われている赤ちゃんや乳幼児と接する機会は積極的に設けて、自分がきた道であり、自分たちが守るべき存在でもある、ということを体感できるような活動はもっと広げて欲しいですし、できたら舞鶴市全中学校で開催して欲しいと思っています。
　また、そこに繋がる意味でも子どもたちへの性教育をもっと踏み込んで授業をし、命の大切さや自分の体の守り方、デートＤＶなど、具体的な例を出しながら丁寧に教えていって自分を大事にする子どもたちであって欲しいと思います。

　最後に、子どもたちには積極的に行動して、失敗を体験してほしいと思います。失敗の先に成功があることもあれば、成功しないこともあると思います。ですが、失敗から学ぶことは何かしらありますし、何より子どもたちには経験が残ります。失敗を恐れず、次々と何かに挑戦する力を養って欲しいと思います。

（多々見市長）
　皆さんの意見を聞き、私の思いを述べさせていただきたいと思います。
　私の思いは多少一般的ではないかもしれませんが、自分が育った環境、時代背景がすごく影響していると感じています。私が小さい時は保育所や幼稚園には通っていませんでした。親の職場に連れていかれて、親の仕事が終わるまで仕事場で自分なりに遊んでいました。戦後間もないので、親は子どもたちに食べ物を与えないといけないと一生懸命働いていました。福祉や教育や支援が十

分でない中みんな助け合って生きてきたという時代。今考えると大変な時代でしたが良い環境に育ててもらったと感謝しています。

その中で、この職に就いて特に思うのは、行政が絶対すべきことの3つとして、1つ目は「子育て環境の充実」、2つ目は「教育、特に乳幼児・義務教育」、そして3つ目は「医療」で、この3つは絶対に必要なものと思っています。なぜこの3つなのか。乳幼児教育は乳幼児の時期にしかなく、小学生教育も小学生の歳の時でないとできない。あとから挽回できないのが子育て環境や教育、医療です。

私は子育て環境で一番重要なものは親の愛情だと思っています。親が自分を犠牲にして子育てしている姿を私は小さい時よく見ました。食べ物が少ない時代に親が自分の食べ物を「これ食べな、おいしいぞ」と言って私に与え、自分が食べているのを見てくれている姿を見て「親って大変だ、子育てで本当に努力している」という思いを持ちました。人は目一杯の愛情を受けないと人に愛情を与えることはできません。自分が愛情をもらったことがないのに人に尽くすことは絶対に無理です。そのような視点から、親は多少犠牲になってでも子どもに愛情をしっかり注ぐ、これがすべての原点だろうと思っています。大人になれば親にお世話になったことは子どもにしてあげないといけないという思いがありますが、最近の親は子どもへ十分な愛情を注ぐことができているのだろうかと思っているところです。
先ほどのお話にもありましたが、例えば高校生が1歳の子を抱っこしたときに「子どもってかわいいんだ」とかわいらしさを感じる。一方で、助けてあげないと生きていけない小さな子の立場などを考えることも子育て環境を考えることにつながります。

教育は、乳幼児教育と義務教育がありますが、その中で親の関わりが重要だと考えています。舞鶴市から他県に派遣研修に行かれた先生からは「子どもたちの成績が優秀な県は、宿題が出たら親もしっかり見ているし、親は子どもの教育に非常に興味を持っている。また、地域の方の関わりも多い」といったことをお聞きしました。我々の地域では、親と子が「将来何をするのか」、「親といつまでも一緒にはいられない」といったことなどを話す時間が少ないのではないかと感じております。また、地域の方にしっかりと教育に関わっていただけるコミュニティスクールがすごく重要だと思っています。

子育てや教育、医療は後から挽回しようと思ってもできないこと、そしてそれらの対象は弱者になりますので、行政がしっかりと取り組まなければならないことだと考えており、そうした重要性を意識する中で、教育が重要だということをずっと思っているところです。

人間にはそれぞれ得手不得手があり、みんなの支え合いで生きていて、多様性があることを学ぶ必要があると考えます。そのためには、小さな時ほど答え

が一つしかない問題は解かさない方がいいと思っています。いろいろな解き方があって、例えば山を登るのに、この方法だと苦しくて危険を伴うけど短時間で登ることができる。一方この方法だとゆっくり登れるけど時間がかかるといったように、様々な答えがあって、子どもたちに「こんな考え方をするのか」と多様性に気づかせることが重要です。支え合いを教えるのは特に小学生の時で、中学生になるとそろそろライバルもいるといったことなど、年によって何に気づいて欲しいのかわかってもらうことも重要だと思っています。

また、少子化の原因は子どもたちが地元に戻ってこない社会減が大きな原因の一つではありますが、親や先生が自分たちのまちの誇れるところを子どもに伝えていないように思います。中学2年生に「将来、舞鶴に残るのか」と尋ねると、ほとんどの場合「5割は戻る、5割は出ていく」と答えます。しかし、私はこのまちの良さや、舞鶴から1時間以内の地域は通学・通勤圏内であり、舞鶴からは17くらいの教育機関へ通学でき、通勤圏内の京都府北部5市2町には100人以上従業員のいる企業が140くらいあることを子ども達に伝えています。勉強の場、働く場をしっかり伝えることで、市外の大学に進学した場合でも、戻るところがあると思っていれば戻ってくる子は戻ってきますが、戻るところがないと思っていると絶対戻ってきません。このように地元の良さや地元の働く場、様々な環境をもう少し子どもたちに伝えることが重要だと感じています。

さらに今話題になっているＩＣＴ。時代が変わる中でＩＣＴ環境に慣れることは絶対必要です。ＩＣＴ環境を活用し、子どもたちに図や様々な仕組みを見せると理解が早まると聞いており、重要なツールであると考えています。しかし、私が古いのかわかりませんが、ＩＣＴで熱血な指導はできないと思っています。やはり近くに先生がいて、「自分のことに真剣になってくれているから自分も頑張らないといけない」と感じることはパソコンでは絶対できないと思っています。そのような意味で、デジタルとリアルの両方の良さを使うべきだと思います。デジタルは必要ですが特に小さい子の教育はそばにいて、多様な考え方、多様な答えの導き方があることを含めて「熱血指導」をぜひ取り入れてほしいと思っています。

そして、中学生にはよく「大学に行くと言うが何のために行くのか」と尋ねますが、その場合、途中で目標が変わっても構わないので、将来どのような仕事をするかということに狙いを定め、将来を思い浮かべてそれに向かって志を持って勉強すること、そしてそのために工夫してくということが極めて重要だということを伝えています。

お互い様の精神と心豊かは「幸せ」、「ウェルビーイング」につながると考えており、そのような心の通う田舎の重要なコミュニティを大切にすること、人と人とのつながりを大切にすること、これが極めて重要なことであると考えています。ＩＣＴの世界、デジタルの世界は自分ひとりで全部できると勘違いを

してしまう点があるのではないかと感じておりますので、中学校の義務教育までに、お互い様の精神で支え合い、そして親に対する感謝の念を持って暮らすことが重要だということも伝えていきたいと思っています。

また、先程のお話にもありましたとおり、大人になれば、問題の課題は何なのかという「課題抽出力」が極めて重要であり、課題を抽出してその課題に対する解決方法を自分で考え、そしてそれを実現することが求められます。

今、学校では、舞鶴でも周辺地域で複式学級の地域があります。アメリカではスクールバスで学校へ行くのは普通で、本市でもバスを使えば5～10分で複式学級で悩む小規模の学校と人数の多い学校をつなぐことができると思います。離れ小島だとか地理的に非常に広い地域ではなかなか難しいかもしれませんが、複式学級の弊害も言われている中で、複式学級は避けるべきではないかと思っています。

最後に、ヤングケアラーや医療的ケア児、不登校になっている子、いじめや虐待にあっている子など弱者対応をきっちりするのが行政だと思っています。様々なことを意識しながら、何を急いですべきなのか、何にお金をかけてやるべきなのか、教育委員の皆さんの意見やまた市職員の意見を聞かせてもらい、限りあるマンパワーや予算でしっかりと教育行政をすすめていかないといけないと思っているところです。

最後に、私は図書館を作りたいと思っています。私がこの職に就いて5年目くらいから、図書館の選書は行政の信念・理念の基準があるべきだということからスタートしました。ベネッセの統計では、国語と算数両方の成績が良い子は「子どもが小さいころから親が絵本の読み聞かせをしていた」、「博物館・美術館に連れていってもらっていた子は、連れて行ってもらわなかった子と明らかに差がある」、「家に漫画ではなく本がある」、「英語や外国の文化に触れることを意識している」との結果が出ています。図書館に行って様々なことを吸収し、自分の得手不得手を意識しながらしっかり勉強して課題を解決していく、まさに課題解決型の図書館、新しい時代の一つの魅力ある施設としての図書館ができればいいと思っているところです。

今日は、次期教育振興大綱をどのようにするのか、今の教育振興大綱に何を加えるのか、何を変更するかについて協議する会議ですが、今日いただいた意見の他にあれば、改めて言っていただけたらと思います。

（四方委員）※意見を代読

育てたい子ども像について、ふるさとを誇りに思えることは、自分の根っこの強さが信頼できることであり、人生の壁を乗り越え、将来に花を咲かせる基礎となるため、現行のままを望みます。

また、基本理念についても、切れ目のない質の高い教育は、時代がどのよう

に変化しても変わることのない理念と言えるため、現行のままを望んでおります。

幼児期は母子保健や療育、保健所等訪問支援など多岐にわたる支援が介入しやすく、小学校への引継ぎも手厚いため効果を上げていると感じます。小中連携は思春期の子ども側に支援を受け入れる抵抗感があり、家庭にも余裕がありません。また、小学校の先生の優しさと、中学校の先生の厳しさにギャップがあるなど、保幼小連携ほどスムーズにいかないため、中学校で躓く生徒の対策が必要であると考えます。

コロナ禍の影響を受け、深刻な不登校ケースが増加しています。不登校児が共働き等の場合、昼間の見守りがなく子どもがゲーム三昧で過ごしている状況もあり、「明日葉」を利用する交通手段もなく引きこもり状態になりやすいため、子どもの心身の健康を守るための居場所づくりが望まれます。そうしたケースは、学校の担任だけでなく、支援チームを組んでの対応や、保護者と子ども本人への専門的なカウンセリングの充実が望まれます。スクールカウンセラーの十分な配置、ソーシャルスキルトレーニングやゲーム依存に関する研修を施策に加えてはどうでしょうか。

教育環境の充実の一環として、肢体不自由の子ども、医療的ケアの必要な子ども等に対する施策が必要と思っています。車いすの生徒がいつ入学してもよいよう、劣化施設の改修において、バリアフリー化を行ってほしいと思っています。

３　その他

次期教育振興大綱策定のスケジュールについて

本日の会議を踏まえて次期教育振興大綱の案を作成し、第 2 回の会議を経てパブリックコメントを実施し、3 月に策定予定。

４　閉　会